４『枕草子』（清少納言）

＊ばかりとき人はなし。まことに、のまつげの落つるをも聞きつけたまひａつべうこそありｂしかのに住みしころの新中将にて、ものなど言ひしに、そばにある人の、「この中将に扇の絵のこと言へ。」とささめけば、「いま、①かの君の立ちたまひなんにを。」と、いと

②みそかに言ひるるを、③その人だに④え聞きつけで、「何とか、何とか。」と耳をかたぶけ来るに、遠くゐて、「にくし。⑤さのたまはば、は立たじ。」とのたまひしこそ、いかで聞きつけたまふらんと⑥あさましかりしか。

（二七五段）

＊語注

＊大蔵卿…。

＊耳とき…耳の鋭い。

＊職の御曹司…中宮職の建物、中宮の仮住まいにあてられる。

＊西面…西のの間。

＊大殿の新中将…藤原道長の養子、のこと。

問１　＝　線部ａ「つ」、ｂ「しか」の文法的意味を答えよ。

ａ＝〔　　　　　〕　ｂ＝〔　　　　　〕

問２　―線部①・③と同じ人物として、最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。

ア　大蔵卿　　　　　イ　大殿の新中将

ウ　そばにある人　　エ　筆者

①＝（　　　）　　③＝（　　　）

問３　―線部②・⑥の意味として最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号を○で囲め。

②　ア　早口に　　　イ　楽しげに

　　ウ　こっそり　　エ　ゆっくり

⑥　ア　驚くばかりだ　　　イ　浅薄なことだ

　　ウ　憎らしいことだ　　エ　恐ろしいことだ

問４　―線部④・⑤を現代語訳せよ。

④＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑤＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問１　ａ＝強意　ｂ＝過去

問２　①ア　③ウ

問３　②ウ　⑥ア

問４　④聞きとる（聞きつける）ことができないで

　　　⑤そうおっしゃるならば

現代語訳　　大蔵卿の正光様ほど耳の鋭い人はいない。ほんとうに、蚊のまつげが落ちるのもお聞きとりになれるにちがいないほどであった。（私が）中宮職の御曹司の西面の部屋に住んでいたころ、大殿の新中将の成信様が宿直であったので、話などしていたところ、（自分の）そばにいた女房が、「この中将様に扇の絵のことを言いなさい。」とささやいたので、「もうすぐ、あの方（大蔵卿）が立ち去りなさるでしょうからね。」と、ほんとうにこっそり耳に入れたのを、（当の）女房さえ聞きとることができないで、「何ですって、何ですって。」と耳を寄せてくるのに、（大蔵卿は）遠くに座っていて、「けしからん。そうおっしゃるならば、今日は（ここを）立つまい。」とおっしゃったのは、どうして聞きつけなさったのだろうかと驚くばかりだった。

ポイント

問３　⑥古文の「あさまし」は現代語と違い、「驚くべきさまである」の意。

問４　④「え聞きつけで」＝「え〜で」は、「〜できないで」の意。

　　　⑤「さのたまはば」＝さ（そう）＋のたまは（おっしゃる）＋ば（ならば）。